

## 2018年度SGH講演会・意見交換会③

6月21日(木)は次の2つの講演会・意見交換会が行われました。

### ① 医療班：熱帯医学研究所

医療班では、長崎大学熱帯医学研究所の山本太郎教授をお招きし、「感染症と人間：抗生物質の歴史と人類への影響」というテーマでご講演を頂きました。先生ご自身が2010年のハイチ大地震や2011年東日本大震災の被災地へ出向かれて活動なさったときの体験談を交えてのお話や、「医療の始まり」といった根源的なお話など、大変内容の濃い講演会でした。質疑応答では、生徒たちがこれから研究しようとしている事への質問にも、ひとつひとつ丁寧に答えていただきました。大変充実した時間でした。



### ② 平和班：多文化社会学部

平和班では、長崎大学多文化社会学部の見原礼子准教授をお招きし、「学校教育を相対化する」と題し講演会・意見交換会を行いました。講演会では「教育を受ける権利とは“誰が” “どのような” 教育を受ける権利なのか」という問題提起をし、諸外国の教育を例に話をされました。また意見交換会では、研究のオリジナリティを出すためにはどうすればよいかという質問に対し、過去の研究をできる限り調べることが大事であると話され、研究の基礎を教えてくださいました。



### ③ 水班：環境科学部



水班は、長崎大学環境科学部の飯間雅文准教授をお招きして、「海藻類からみた長崎と世界の海洋汚染」というテーマで講演をしていただきました。飯間先生は、海洋汚染の代表的なものとして知られている赤潮は、地球温暖化によるプランクトンの異常発生によって引き起こされることや、中国大陸でのエチゼンクラゲの大発生は、やがて日本にも影響を与えることなどをお話してくださいました。海洋汚染を考えるには、地球規模で考えなければいけない、まさにグローバルな課題だと認識することができました。講演後は生徒たちからの質問に丁寧に答えていただき、今後の研究を進めていくうえで貴重なアドバイスをいただきました。